

平成30年度学校自己評価表（計画段階・実施段階）

福岡県立筑紫丘高等学校長 印

43

学 校 運 営 計 画 （ 4 月 ）				評価（3月）		
学 校 運 営 方 針		豊かな心と創造力に富み、世界に貢献できる人材を育成する。 生徒に自ら考え、判断し、行動し、さまざまな体験から多くを学ぶ指導をすべての教育活動で実践する。			A	
昨年度の成果と課題		年度重点目標				
<p>活気ある教育活動が展開されており、本校の特色ある取組の成果も確実にしている。</p> <p>今年度は、さらに「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善及び評価法の研究を推進し、高い学力と課題解決能力をはぐくむ。また、社会の一員としての自覚と責任を持って行動できる態度や心を育成するとともに、社会の発展に貢献する高い志を持たせる。</p>		年度重点目標		具体的計画		
		<p>高い学力と、それを活用して課題を解決する力、新たなものを創造する力をはぐくむ。</p> <p>集団や社会の一員としての望ましい態度や行動の在り方を身に付けさせる。</p> <p>自らの可能性を高め、挑戦する気概を持ち社会の発展に貢献する高い志を持たせる。</p>		<p>①十分な知識及び技能を習得させ、主体的に学ぶ態度を育成する。</p> <p>②言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成し、他者との協働性を身に付けさせる。</p> <p>③理数教育を充実させる。</p> <p>①社会の一員としての自覚と責任を育成し、生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣を確立させる。</p> <p>②たくましい体と強い精神力を育成する。</p> <p>③協働の喜び、達成感・連帯感を醸成し、互いの個性と人権を尊重し合う環境を作る。</p> <p>①自己の個性を理解し、それを伸張させ、キャリアプランニング能力を育成する。</p> <p>②互いに高め合う環境で困難を克服するスキルを育成し、グローバルな視野を持って、社会にはばたく力を育成する。</p> <p>③自己の夢の実現とともに社会の発展に寄与する志を育成する。</p>		
		<p>自らの可能性を高め、挑戦する気概を持ち社会の発展に貢献する高い志を持たせる。</p>		<p>①十分な知識及び技能を習得させ、主体的に学ぶ態度を育成する。</p> <p>②言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成し、他者との協働性を身に付けさせる。</p> <p>③理数教育を充実させる。</p>		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価（3月）		次年度の主な課題
学力の向上	高い学力と、それを活用して課題を解決する力、新たなものを創造する力をはぐくむ。	学力の向上・定着につながる考査の運用。事前から事後までを含めた指導の徹底を図る。		A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程については、教科からの原案を集約して、課程表を編成する。 ・ルーブリック等を用いての振り返りや生徒の理解の変化をデータ分析し、主体的・対話的で深い学びを推進していく。 ・総合的な探究の時間の教育活動を、構造的に示す全体計画を作成し、課題発見・解決能力の効果的な育成を進める。 ・エネルギー・環境問題講演会や企業訪問、高校生科学技術コンテストやノーベル賞受賞講演会への参加等ができ、意欲喚起に効果的であった。次年度も、講演会やコンテストに積極的に参加させる。
	主体的に学ぶ態度、他者との協働性の育成を通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	主体的・対話的で深い学び、ICT機器を取り入れた授業、及びその評価法を定着させる。		A		
	自らの可能性を高め、挑戦する気概を持ち社会の発展に貢献する高い志を持たせる。	総合的な学習の時間の内容・評価の検証を行う。		A	A	
		利用率、実用性の高いシラバスを作成する。		A		
	理数教育の充実	「高校生科学技術コンテスト」や「FC-S P」等へ積極的に参加させる。		A	A	
	最先端の技術を学べるアメリカの企業や研究施設を訪問する海外修学旅行、セミナーや講演会等をさらに充実させる。		A			
生徒の健全育成	集団や社会の一員としての望ましい態度や行動のあり方を身に付けさせる。	さわやかな挨拶と端正な身だしなみ、マナーや交通安全指導を徹底する。また、生徒の主体的清掃活動を促す。		A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の行動の中で規範意識をより高める必要がある。この状況を生徒自身が感じ、考え、行動できるような指導を行う。 ・生徒会主体のキャンペーンを実施し、生徒自身に問題意識を持たせて、対策を考えさせる。 ・学校行事で育成されたリーダーシップを、普段の学校生活で生かせるような指導を行う。 ・スクールカウンセリングや性・心の健康相談は、申し込みも多く、活用されている。また、教職員による相談活動も、面談ウィーク、オフィスアワー等よく機能しており、多方面からの支援ができています。次年度も、教職員が連携して生徒理解に努めたい。 ・心肺蘇生法の実技講習、LGBTや特別支援教育についての職員研修を次年度も企画し、職員の理解を深める。
		職員間でいじめに対する認識を確認し合い、SNSを含めた生徒の動向を観察しながら、些細な兆候を見逃すことなく、いじめのない安全・安心な教育環境を確立する。		A		
		生徒の自主的な活動を奨励し、生徒会活動の活性化を図る。		B		
		生徒が将来社会の一員として健全に社会参画できるよう、政治参加教育を充実させる。		A		
	自己の個性の理解とその伸張を図るとともに、互いに高めあう環境での困難を克服するスキルを育成する。	三大行事の生徒運営委員会を通してリーダーを育成しながら、組織の在り方を学ばせる。		A	A	
		部活動集会・部長会議を活用し、部活動生の意識向上につなげ、部活動を奨励する。		A		
	生徒理解の深化	生徒が健康で安全な学校生活が送れるよう、スクールカウンセリング、面談ウィーク、オフィスアワー等の教育相談体制を充実させ、生徒の心のサポートを行う。		A	A	
「生徒サポート委員会」や共有フォルダの活用を通して生徒の状況を把握するとともに、生徒を深く理解し、情報を共有し合う環境を作り出す。		A				
	特別の支援を要する生徒への「合理的配慮」を推進し、指導体制を整えるとともに、保護者と連携し「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成する。		A			
健康安全教育の充実	健康診断、身体測定、体力測定のスムーズな運営と精度を向上させる。		A	A		
	心肺蘇生法、AED、エピペン研修を実施する。		A			

(その2)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
進路指導の充実	生徒の主体的な学習を促すため、3年間を見通した進路指導計画を継続的に見直し、効果的な模擬試験等の実施、資料作成を図る。	模擬試験の結果分析や生徒の学力実態、志望動向を把握し、生徒の進路実現を支援する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課外、GUS等の実施については、意義や目的、内容をこれまで以上に明確化し、実施の有無・回数、実施時間等の工夫により、より効果あるものとする。 ・大学入試制度改革については、まだまだ不透明な部分も多い。引き続き情報収集を行いながら、新入試への対応を検討していく。 ・「校外活動体験」の活動履歴等の蓄積の充実を図る。 ・「知の創造塾」「九州大学未来創成科学者育成プロジェクト」等、順調な参加であった。また、外科手術セミナー、ふれあい看護体験、県教育庁インターンシップ等、積極的な参加がみられた。さらに、東京研修での企業訪問は、生徒の職業意識の高揚に寄与した。現行の活動については継続実施するが、他の要望に応える受け入れ先も検討していく。
		難関大学受験層を育成するためのサポート体制を充実させる。	A		
	生徒の適切な情報管理・運用能力の向上を図るため、的確な進路情報の提供を行い、学習意欲を高める。	大学入試制度改革に関する情報の収集と提供を行い、生徒が広い視野を持って進路選択ができるよう進路指導を徹底するとともに、個人面談を中心としたサポート体制を整える。	A	A	
		生徒の多様な進路希望に対応した、類型別の課外、グレードアップセミナー、進路別二次対策授業を充実させる。また、難関大学のAO・推薦入試等に対応した指導を行う。	A		
	自らの可能性を高め、社会に貢献する高い志を持たせるため、キャリアプランニング能力やグローバルな視野をもつ人材を育成する。	社会人講演会や医学部・難関大学進学講座の一層の充実を図るとともに、外部講座やインターンシップへの積極的な参加を促すなど、「高い志」を持たせる。	A	A	
		海外研修の実施を通じ、グローバルな視野をもつ人材の育成を図る。	B		
言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成や主体的に学ぶ態度の育成を図ることで、課題解決能力や創造力をはぐくむ。	小論文コンクールの各ジャンルで優れた作品を出品できるよう指導の徹底を図る。	A	A		
	GTECをはじめ、検定等をうまく活用した英語運用能力の向上を図る。	A			
広報活動の充実	中学生とその保護者への広報	中学校、学習塾への広報活動の充実と、第4・6学区の中学校訪問を実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の体験入学は、参加者アンケート結果も良好であった。次年度も、さらなる充実を図り満足度の高いものとする。 ・ホームページの更新スピードを上げるなど、本校の魅力の外部への発信を充実させる。 ・学校関係者評価委員やPTAに学校行事への参加をいただいた。述べられた意見等は学校運営に生かしていく。
		中学生やその保護者、地域の人々に本校の魅力をさらに伝えるために、「中学生の体験入学」の内容を改善充実させるとともに、小学生に対しても広報活動を広げていく。	A		
	効果的な広報活動の展開	学校案内、広報資料、広報用ビデオ、ホームページの内容を充実させ、本校の特色や魅力を外部に発信する。	A	A	
		本校の活性化のために、学校評議員や学校関係者評価委員に対し、積極的に学校行事への参加を要請するなどして、本校の教育活動に対しての意見を求める。	A		
図書活動の充実	主体的な読書活動の推進と図書館の利用の拡大	図書館オリエンテーションや読書週間を充実させ、また、読書案内「筑高の100冊」を活用し、生徒の主体的な読書活動や積極的な図書館利用を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「筑高の100冊」の改訂を行い、引き続き活用しやすいものを提供し、読書活動の推進を図る。 ・図書館の読書スペースの工夫を行い、読書環境のさらなる向上を図る。 ・生徒の感性を刺激し、豊かな感受性を育むような芸術鑑賞が実施できた。今後は、校外施設での演劇鑑賞も検討する。
		図書委員会の活性化により、読書環境の整備・魅力ある図書館運営を図る。	A		
	情操教育の促進	芸術鑑賞を実施することにより、豊かな感性と多様な文化に親しむ態度を育成する。	A	A	
	教育機器の整備	視聴覚室の積極的な活用を促進し、ICT機器や電子黒板の効果的活用を推進する。	B	B	
事務室運営	経営参加型の事務室業務の推進	生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌との連携を密にし、スムーズに処理していく。
		各分掌と情報の共有化を図り、学校経営目標が実現するための事務処理を行う。	A		
		生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で的確に情報発信する。	A		